

針槐（はりえんじゅ）

また逢えるよ
と わたしの眼をじっと見ながら
あなたが言う

南へ渡る燕が

海を越え

この軒にまた巢をかけるように

六月になれば

道に沿った針槐（はりえんじゅ）が

また甘い香りでわたしを抱きすくめるように

この小川の水のこの一粒が

海へ流れ

空へ昇り

雨となってまたここへ戻ってくるように

それとも

この花壇中の白ばらが

悉（ことごと）く黄のばらに変わる

その日に

また

逢えるよ……